

體格検査の問題

菅原 教造

一 春秋二季の大掃除の様な體格検査

今は幼稚園でも學校——小學校、中等學校、專門學校、大學と云ふ風に、凡そ學校と云ふ有ゆる學校でも體格検査（正しく云へば體質測定）を爲ない所はありません。しかしされる方は尙更の事でしょうが、する方にしましても意識的には格別に其意味を考へて居ないやうです。例年のお極りだから、厄介だけれどもまた遣るとしようか位の所で、春秋二季の大掃除のやうな具合に、厭や厭やながらそれが通つて行つて居るやうです。たま／＼父兄が教育家やお醫者さんの場合には、或は昨年のと比べたり、三島さんの平均數との差引を調べて見たりします。かう云ふ人達にしまして、高々それ丈けの事です。それ以外にそれ以上に、かう云ふ検査の有する意義と云ふやうな事を、餘

り氣を付けては居ないやうです。

二 いろいろの問題

しかし何事によらず考へ出しますと事が意外に面倒になつて來るものです。此の體格検査（體質測定）にしまして同じ事です。例へば、私達は何故に検査……検査ではなく實は測定です……測定に測定すべきもつと重大な點が有るのか、或は更に測定すべきもつと重大な點が有るのか、或は更に参考して見なければなりません。又私達は何故に下の學校から上の學校へ此の體質測定を接続させずにあるのだらうか、幼稚園から大學や專門學校まで一人の子供の發達と成長を通覧し得るやうな組織を何故に作らずにあるのか知らずと云ふやうな事を尋ねたくありません。又私達はあゝ云ふ測定

は體質改良・學校衛生と云ふやうな小局部の考の外に、もつと大きい一國の民族と人種とかの本質や發達の上から見た重大な意義がありはしないかと云ふ事をも考へます。それから私達は體質測定の起源は元來どんな事件に發したのであらうか、かう云ふ測定と云ふもの、本來の意義は何處に在つてそれがどう云ふ風に變化して來たのであるかと云ふやうな事も頭に浮んで來ます。更に私達は此の體質測定の兄弟分たる刑事人類學の方の指紋法とかベルティヨン式測定とか云ふものに比して、此の學校の體質測定の實際上の意義と云ふものをも尋ねて見たくなります。そして最後に私達は此の體質測定の問題は、餘り大局を見通す事の出來ない、又全的民族生活と云ふものに餘り興味を持たない小局部の専門家たる學校醫に委せたりした爲めに、案外其主義なり真髓なりが化石して來かゝつて居るのではないかと云ふ事を感じたりします。

三 測定者の化石

化石々と云つても、一概にけなす事が出來ません。寧ろ問題の性質上化石するのが當然であるならばそれは自然の勢と云ふもので、其儘に放つて置いて宜しいものかも知れません。しかし物には歴史と云ふものがあります。由來があります、起源と云ふ事があります。

今は化石し切つて了つて、測定をする人も平凡な義務として器械的にやつて居りますけれども、やり始めの昔は非常に興味のある意義のある事實として感激的な態度を以て或は沸々と血を湧かしたり、電氣の火花の散るやうに神経を激動させて居た事があつたかも知れません。

従つて國際間の大論戦も起つたでしょう。民間に凄まじい恐怖をも起させたでしょう。其處に生き／＼した人間味と云ふものが動いて居たのでしよう。化石とは丸で違つたものが働いて居たのでしよう。

四 英國は測定の源流

人體測定の元祖は英國のホワイト（一七二八—一八一三）と云ふ人です。此の人は歐洲人と黒人と類人猿の前腕の長さを比較しました。ホワイトは前腕の長さは黒人は歐人よりも長く類人猿は更く黒人よりも長いと云ふ事を發見しました。ホワイトは當時黒人を五十人も測定したのでありまして、其記録は一七九七年（寛政十一年）に出版されて居ります。此の前腕と二の腕の長さの比較はかなり興味のあるもので、カンニングハムによれば次のような百分比になります。

「二の腕」の長さを……………一〇〇、〇とすれば

チンパンジー……………	九四、〇	類人猿未開人
ファイジー人……………	八一、九	類人猿との比較
黒人……………	七七、七	歐洲人の成人との比較
歐洲人（成人）……………	七三、四	胎兒との比較
同（胎兒六ヶ月）……………	七七、〇	
同（胎兒二月半）……………	九〇、〇	

次に一八三四年（天保五年）にヴィエルメと云ふ人が英國人の種々の階級の人を、例へば工業地

や大都市の住民を田舎の人と比較したり、炭山に働いて居る子供の身長や健康を調査したりしました。この人は今の伊太利のニツェフォロ（無産者人類の著者）などの先驅者です。

又一八六一年（文久元年）にはベッドーと云ふ人が愛蘭土人の頭髮の色と眼の色の研究を發表し續いて此の調査を全大英國に及ぼし、遂に大陸にまで其研究の歩を進めました。

五 普佛戦争——巴里攻撃——砲彈

博物館に墜つ

歐洲大陸では殊に此の調査が盛になりましたがこれに就て非常に興味のある政治上の因縁談があります。

一八七〇年（明治三年）の七月に普佛戦争が起りましたが、既に九月一日にはナポレオン三世がセダンで降参をし、九月十六日には巴里が圍まれて了ひました。巴里は翌年（一八七一年、明治四年）の一月二十八日に陥落し、此の日に普魯西王

ヴェルヘルム一世はヴェルサイエ宮に於て獨逸皇帝の位に即いたのでしたが、此の包圍の間の巴里の人々は、一方ならぬ辛酸を味ひました。

ビスマークが「どうも意志の無い奴ぢやから、行くなと云うて聞せとつても、何處へ飛んで行きよるか分らんで、はゝゝゝ、どうも困つた奴で……」と佛軍の抗議を嘲笑したと云ふ有名な普軍の砲彈は、遠慮なく病院へも學校へも飛んで來ました。

殊に此の砲彈は度々有名な博物館に墜ちて損害を與へました。これが抑々事件の發端なのです。當時の館長は一流の動物學者人類學者として、殊に頑固を以て聞えたド・カートルファージュでありました。

六 老人類學者の激怒

人種の上からも歴史の上からも、もとく仲の悪い佛蘭西と獨逸です。それが一たまりもなく戰爭には負ける、巴里は圍まれる、慘酷な砲撃を受

ける。殊に自分の主宰して居る美しい博物學の博物館に憎むべき普魯西の砲彈が來るのでから、六十の坂を越した一徹者のド・カートルファージュが怒つのも無理はありません。此の老人は普魯西人に對する憎惡が其極點に達しまして、眞に怒が心頭より發したのであります。

彼はラティン人種として怒り、佛蘭西國民として怒り、人類學者として怒りました。就中此の人類學者として怒つたと云ふ事が、佛獨の二大人類學者を中心にして、世界の學界を賑はした大事件を生ずるに至つたのであります。其の事件とは則ち普魯西人種問題であります。

七 普魯西人種問題

ド・カートルファージュは其一七八一年に、憎惡と憤怒の結晶とも云ふべき一論文を草しまして、先づ之を『兩世界評論』に掲げ、次に『人類學會々報』にも掲げ、尙單行本として出版しました。その論文は『普魯西人種』と題した有名なるもので、

これは先づ和蘭文に譯され、次に一八七二年には英譯されました『人種學的に考へたる普魯西人種』と云ふ名で出版されました。

此の有名な論文は、人種學の上から非常に激越した調子を以て普魯西人を攻撃したものであります。ド・カートルファージュの云ふには——普魯西人種は元來テュートン人種ではない、彼等は嘗て歐洲へ侵入した蒙古人の後裔のフィン人で、今のラッブ人などと同族である。彼等は自分の受ける事の出来ない文明を嫌つて且つ之を呪ふ野蠻人である。彼等がわざわざ吾が博物館を砲撃した所以は即ち、野蠻人の本性を露はしたもので、其目的は巴里から優秀と善美とを奪はんが爲めである——と云ふ風なもので、實は佛蘭西人としての怒が、人類學者としての血を湧かせ過ぎたのであります。

八 挑戦と應戰

此の思ひがけない激論に對して、負けず嫌ひで研究好きの獨逸人はどうして黙つて居られましょ

う。ド・カートルファージュに劣らないほど頑固で且つ勢力のあつた獨逸の醫者にして政治家と人類學者を兼ねたヴィルヒョウは、年配も五十の働き盛りでした。彼はテュートン人として獨逸人として且つ人類學者として此の挑戦に應じまして、此の二大家の間に烈しい人類學の戦ひが始まりました。ヴィルヒョウは一八七二年（明治五年）に『科學的人類學の方法を論じてド・カートルファージュ氏に答ふ』と云ふ論文を『人種學雜誌』に公けにし（これは佛譯されて一八七三年『科學評論』に載りました）、更に『普魯西人種に就て』と云ふ論文を『人類學雜誌』に書きました。

此の二人の大家の論戰には、普佛戰爭と云ふ大事件が生んだ國民的の憤慨や嫌惡が絡み付いて居る爲めに、今日のやうな世界大戰争時代から見ても一層の面白味があります。

九 論より證據

當時餘り進んで居なかつた人種學上の知識は、

強烈な國民的憤激に由つて尙更調子を狂はせられて居りました。實際を申しますと、猛り立つた二人の學者の議論は共に半分は正しく半分は誤つて居たのであります。ド・カートルファージュの正しかつたのは普魯西人とフィン人とは同族であると云つた事で、實際フィン人はリトニア人やテュートン人と同族である事は現在に於て認められて居るやうであります(リブレール)。ヴィルヒョウの正しかつたのはラップ人とテュートン人とは同族でないと言つた事で、實際ラップ人とフィン人とは當時は混同されて居たのであります。即ち普魯西人をテュートン人種に屬せないと云つたのはド・カートルファージュの誤りで、普魯西人はフィン人と同族でないと言つたのはヴィルヒョウの誤りであります。

但しこれは其後の研究者が與へた判決で、當時の二人の議論と云ふものは云はゞ水掛論の傾きがありました。それ故互に自分の説を押し通さうと

する爲めには、何か證據を擧げなければならぬのであります。そして其證據を擧げる爲めに採つた獨逸政府の努力は、間接に學校の體質測定を生んだと云ふ不思議な廻り合せに成つて來たのであります。これから順に其手續を述べましょう。

十 獨逸政府の國勢調査——小學校生

徒六百萬人の測定

蒙古人の後裔だのフィン人やラップ人と同族だのと云はれて怒り出した普魯西人は、何とかして之を科學的に反駁してやりたいものだと思つて之を人物としては醫者として人類學者として政治家として勢力のあつたヴィルヒョウがあり、國家として及び民族としては、何百年來の素志を貫徹して統一された獨逸帝國があります。獨逸に取ては實に國運隆々として天に冲せんばかりの勢の漲つた時でありました。思ひ付いた事で出來ない事はないと云ふ意氣込みの盛んな時代でありました。殊に問題が聯邦の主腦部を形作る普魯西人の自負心の

上に懸つて居るのです……

茲に於て獨逸政府は一八七六年（明治九年）に國勢調査を始めまして、獨逸帝國內の小學校生徒六百萬人の頭髮の色と眼の色とを調査しました。これが所謂學校に於ける體質測定の起源なのであります。

私共はヴィルヒョウや統計官や小學校の校長が、否獨逸民族が、如何に熱心に此の事業に取り掛つたかを、かなり明瞭に思ひ浮べることが出来ます。彼等は決して化石した測定者ではなかつたのであります。

茲で一寸斷つて置きますが、小學校で生徒の衛生状態に氣を付けるやうにと云ふ法令の出たのは佛蘭西のルイ・フィリップ王の時代で、一八三三年（天保四年）の法律と、一八三七年（天保八年）の勅令とが最も古いものに成つて居ります。しかし大數の測定を始めたのは全く「普魯西人種問題」に起因した獨逸政府の國勢調査の結果です。

十一 子さらひの恐怖

所が茲に全く思ひがけない餘波の事件が起つて來て、少なからず當局者を困らせました。丁度日本でも徵兵令が施れた時に、若い者を引張つて行つて生血をしばらく取ると云つて農民が一揆を起したと云ふやうに、此の小學校生徒の體質測定は北獨逸殊にポーゼンの民心に絶大なる動搖を興へました。

其時にそれからそれへと擴つた噂は次のやうなものであります。曰く、普魯西王が土耳其の皇帝と博奕をして、四萬人の頭髮がブロンドで眼の青い子供を賭けたが、負けたさうだ。それで其四萬人の子供は方々で捕へられて、近々土耳其へ連れて行かれるさうだ。曰く、頭髮の黒い眼の青い加持力教の子供は、皆な田舎から露西亞へ連れて行かれるさうだ。曰く、ムール人が覆を掛けた馬車に乗つて田舎を廻つて、頻りに子供を集めて居るさうだ。曰く、小學校の校長も此の子供狩りの

加勢をして居るさうで、彼等は子供一人について五弗ごぶづゝ貰つて居るさうだ——

噂は更に又噂を生みまして果てしがありませんでした。一般の不安はつものるばかりで、父兄の激昂は極點に達しました。父兄は子供をどしどし退學させて、自宅へ隠して置くやうになりました。若し子供が町へでも出やうものなら、おどろくして彼方あつちみこちみ見此方見をして、すぐ両親にしがみ付くと云ふ始末でした。

小學校の校長も流石に之れには弱つて「な—に浚つて行く子供は、毛の青い眼の緑な子供ですよ。皆さんの子供衆は大丈夫く、私が保證する。決して恐がるには及びませんよ」と云つて廻つて、やつと父兄を安心させたと云ふ珍談があります。

十二 日本人の體質測定

話が「子浚ひ」の餘興まで進みましたから、もうかれこれ御仕舞ひです。何事も人が土臺で制度は後に出来るものです。所が一旦其制度が出来て

了ひますと、後から此の内へ入つて來た人は、よほど偉くないと必ず制度の弊に擒はれて負けて了ひます。つまり目的といふものが追々にぼけて行くからです。ばかしに成つて行くからです。況や其目的が初めから不完全で、しかも之を扱ふ人が化石して來るとしたならば、これほど變な事はありませんまい。

若し學校の體質測定の意義の一部に、日本民族として日本人種としての特徴なり本質なり、又其の發達なり成長なりの標準的研究に貢獻する所があるやうにと云ふ簡條が必要だと、誰か考へたなら、決して現在のやうなものを拵へなかつたでしようと思ひます。これは御互の問題です。皆さんで一つ考へて下さい。

そこで恐らくは皆さんは今更のやうに、「日本人の體質測定は何時誰が始めて今どう成つて居るのかしら」と云ふ質問を起すでしょう。ついでにすから申しますが、此の方面の開拓者もやはり獨逸人

でした。明治十七年頃の『獨逸の東亞自然及び人種研究會報告』に掲げたベルツの『日本人の體質』と云ふ二つの論文が吾々日本人の「骨格」と「生體」の測定と觀察を試みた最初のものでありました。しかしこれはベルツが大學病院へ來た患者に就て調べたもので、數も五六十人に過ぎず、男女の性別も確かでなく、且つ其人種學上の結論も今から見ると異論があります。

然るに其後三十餘年を経ても、未だ日本人としての何等の大仕掛な測定的研究が發表されて居りません。これは一體どう云ふ譯でしょうか。或はそれは人が無いからだと言ふ人があるかも知れませんが、決して其様な事はありません。

現に東京の理科大學には松村瞭君あきがあり仙臺の醫科大學には長谷部言人君ことんがありまして、此の方面に精しい深い研究を續けて居ります。殊に松村君の研究は殆ど完成の域にまで達して、しかも尙滿を持して居られるやうですが、これまでに仕終

はせるには、非常な個人的の努力と不便とに堪へなければならなかつたのです。

つまり人はあつても勢と云ふものに乗じなければ大きい仕事は出来ません、出来ても非常に時が後れます。かう云ふ事業の原動力たるべき我民族的精神と云ふものの足だまりが確りして居ないと云ふ事、かう云ふ力強い精神を具體した有力な機關が出来て居ないと云ふ事、たとひ外形的に機關が出来て居ても實力（實現化可能性）が充實して居ないと云ふ事、これが此の方面の研究に於て我國の最大缺點です。

十三 將來の問題

幸に日本人種の體質測定——其人種上の分類、其國別、及び周圍の民族との關係等は、松村君に由て仕上げられつゝありますが、更に重大なのは日本人の發達及び成長の測定の問題です。此の最良のしかも唯一の場所は、云ふまでもなく幼稚園と學校とです。勿論發達及び成長の一系列の大數の

測定を得るまでには、十數年を要すべき氣長な仕事で、しかも頗る煩瑣な手續を要するのではあります。角にも吾々は日本人として之をやり通さなければならぬまいと思ひます。

醫にばかり委せず、大局を見渡す事の出来る人類學者に依頼して測定の大綱を定めて貰はなければならぬ。

成る程かう云ふ事業の着手には、先づ民族的精神と云ふもの燃え立つ足だまりが必ずあります。然るに今は日本は天下太平なのでし

や一通す爲めには先づ幼稚園や小學校の體質測定と云ふものに、

此の目的に合ふやうな改正を加へなければなりません。其爲めには今迄のやうに餘り専門的の學校

ヒコウが人類學者として憤怒したやうな、又獨逸政

Items		Classification	No. of Fields	
Sex	Age	Race		
Stature	Place of Observation			
Birthplace	Date		Observer	

Measurements	Descriptive Characters			
Head length	Sex	Age	Stature	Color
Head breadth	Muscle	Complexion	Complexion	Complexion
Vertex to Tragus	Skin colour	Complexion	Complexion	Complexion
Strygomatic	Hair	Hair		
Nasion to Chin	Teeth	Teeth		
External Occipital	Ulna	Ulna		
Internal Occipital				
Nease length				
Nease breadth				
Ear length				
Ear breadth				
Ear to nose				
Stature				
External occipital				
Pubic breadth	Esac	Esac		
Acromion	Face	Face		
Lebra				
Wrist				
Middle Finger				
Elbow girth				
Upper tracheator	Eye	Eye		
Lower				
Elbow	Orbit	Orbit		
Orbit breadth				
Illiac crest breadth	Nose	Nose		
Span				
Circumference of Breast	Jaw	Jaw		
Hand length	Lips	Lips		
Hand breadth	Teeth	Teeth		
Foot length	Ear	Ear		
Foot breadth	Lower limb	Lower limb		
Sitting height				

Artificial Deformation

Painting	Ear	Teeth
Tattooing	Ear	Finger
Circumcision	Nose	Foot
Food	Lip	Genitals

成る程かう云ふ事業の着手には、先づ民族的精神と云ふもの燃え立つ足だまりが必ずあります。然るに今は日本は天下太平なのでし

成る程かう云ふ事業の着手には、先づ民族的精神と云ふもの燃え立つ足だまりが必ずあります。然るに今は日本は天下太平なのでし

府が國勢調査を斷行したやうな民族的感激と云ふやうなものが無いかも知れません。しかし何も「感激」や「はづみ」が無ければ仕事が持上がらないと云ふ理窟はありません。よく落付いてねち／＼と理性の働きて切り盛りして行つても……いや寧ろ此の方が却つて初めに見込んだ通りの地味な結果が擧がるでしょう。私は結果さへ擧がればそれで満足です。

いろ／＼と思ふ事を述べましたが、最後に御參考までに人類測定學の箇條書きの見本を一寸御目にかけてましょか。

前頁に掲げたのは大正五年に松村君と長谷部君と柴田君とで我が南洋の新領土の住民を調査に行つた時、松村長谷部兩君が合議して立案した測定表です。今茲で一々此の表の細目を解説するのも面倒ですから略しますが、兎も角も新領土の住民調査といふ世界の戦局の上についた目の前の活きた事實を取扱ふ爲めに、當時のオーソリティーが思

ふ通りに作つたものと云ふ所に、學術上の權威の外に尙民族精神的の強い共鳴があり、民族生活の記念的價值があるではありませんか。(六、七、廿三)

入 門 の 書

■人類測定學に就いて、初學者にも専門家にも參考になるものは *Fison and Road, News and Queries in Anthropology*. 1892. と云ふ便利な本です。

■人類學・人類學・考古學等各部門の全般を、最も簡明に知るには *Haddon, History of Anthropology*. 1910. が宜しうです。小冊子ですが、非常によく纏めてあります。

■人類學の大體を平易に述べた輕便な本も、やはり *Haddon, Races of Man and their Distribution*. 1909. です。少し精しい所では *Deniker, The Races of Man*. 1900. が有名です。

■尙以上の諸書にはそれ／＼専門の參考書を擧げてあります。それから「普魯西人種問題」に就ては *Rapley, The Races of Europe*. 1906. などをご覽なれ。